AUDIOTRAK®

PureAudio PCI Card

PRODIGY HD2™

マニュアル

はじめに

製品紹介

ハードウェアの取り付け

ドライバーのインストール

コントロールパネルの機能

接続と使用方法

ご使用前にこのマニュアルをよくお読みの上、
正しくお使いください。
そのあと保管し、必要なときにお読みください。
このマニュアルには保証書が付いておりますの
で大切に保管してください。

PUERAUDIO
PCI Noise Killer
DAC AK4396
Triple OPAMP(Socket Type)

光出力 デジタル出力	24/192 デジタル出力	120dB D/Aコンバータ
独立H.P プリアンプ内蔵	LP/ATX ブラケット提供	QSOUND 3D サラウンド

目次

目次……1
安全上のご注意……2

製品紹介及び推奨環境

製品紹介……4
製品仕様……5
システム仕様……5

ハードウェアの取り付け

ハードウェアの取り付け……7

ドライバーのインストール前に

BIOSの設定……9
チップセットドライバー/Windows Update(サービスパック)……9

ドライバーのインストール

Windows 2000/XP/2003/XP64/Vista ドライバーインストール……10

コントロールパネルの機能と設定

基本設定……12

各項目別機能

各項目別機能……13

接続と使用方法

接続と使用方法……17

スペック……18
FAQ&TIP……19
保証について……23
ユーザー登録について……23
修理について……23
保証書……24

安全上のご注意　● 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 警告　この表示は、死亡または重傷などを負う可能性が想定される内容です。

⚠ 注意　この表示は、傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性がされる内容です。

絵表示の例

△　このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意」内容です。

⃠　このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

●　このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 警告

異状が発生した場合は使用しない

禁止

電源プラグを
コンセントから抜く

煙、異臭、異音、異常な熱さなど、異状が発生した場合はパソコン本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または弊社サポートセンタに点検・修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

パソコン内部や本製品に水や異物が入らないように

禁止

電源プラグを
コンセントから抜く

本製品の内部に水や異物が入った場合は、パソコン本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または弊社サポートセンタに点検・修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

破損した場合は使用しない

禁止

本製品を落としたり、破損したままでは使用しないでください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または弊社サポートセンタに点検・修理

分解、修理、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
製品の点検・修理は販売店または弊社サポート

⚠注意

本製品の取り付け・取り外しに関するご注意

■ 本製品の取り付け・取り外しの際には、必ずパソコンの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグを
コンセントから抜く

本製品の取り付け・取り外しの際には、必ずパソコンの電源をＯＦＦにし、コンセントから電源プラグを抜いてください。

■ 精密電子部品には直接触れない

注意

精密電子部品には直接触れないで、本製品の非金属部分をつかんで設置作業を行ってください。

使用・保管上のご注意

■ 次のような場所での使用や保管はしない（搬送時も含む）

注意

- 直射日光のあたる場所
- 浴室・台所など湿気の多い場所
- 高温になる場所
- ホコリの多い場所
- 温度差の激しいところ
- 振動の激しいところ
- 衝撃の加わる恐れのある場所
- 強い磁力・電波の発生する物に近い場所
- 漏電・漏水の危険のある場所
- 傾いた場所・不安定な場所
- 静電気の影響の多い場所
- 腐食性ガスの存在する場所
- 結露する場所
- 一般的な室内とはかけ離れた環境
- 子供やペット、その他誤った使用をする恐れのある第三者に遭遇する恐れのある場所
- その他一般的に精密機器にそぐわない場所は避けてください。

接続・使用上のご注意

■ 接続ケーブル・接続先の機器の選定には、十分注意

注意

接続ケーブル・接続先の機器の選定には、十分注意してください。
適切でない接続は、機器を損傷させる原因となります。

■ 本製品に接続されているケーブル類を折り曲げたり、強くひっぱったりしない

注意

本製品に接続されているケーブル類を折り曲げたり、強くひっぱったりしないでください。
本製品の故障の原因となります。

■ 使用中には適正な音量に調整

注意

ヘッドホンを耳にかけたままパソコンを起動しないようにしてください。
大音量は聴覚器官を損傷する恐れがありますので、十分に注意してください。

■ 本製品の光端子からのレーザー光を直視しない

禁止

視力を失う恐れがあります。

■ 精密機器において、静電気は厳重注意

必ずする

静電気は、精密電子部品にダメージを与えることがあります。
静電気を取り除いてください。水道の蛇口などアースされている金属部分に触れたり、静電気除去製品などをご使用ください。

■ 本製品について

- 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、サポートの対象外となります。あらかじめ、ご了承ください。
- 本製品は人命に関わる設備、高度な信頼性を要する設備に組み込んで使用することを意図されておりません。損害が生じても、弊社及び代理店、販売店では、いかなる責任も負いかねます。

● 製品紹介

PRODIGY HD2 をご購入いただき誠にありがとうございます。
PRODIGYHD2はAudiotrakProdigyシリーズの中でも最高の音質を提供する、真のオーディオファンのためのオーディオカードです。コンピューター用サウンドカードの中で最上位スペックとなる120dBのダイナミックレンジを誇り、最大24bit/192kHzまで対応するVIA社のオーディオコントローラーとAKM社の2チャンネル専用DACであるAK4396を採用、長年に渡る回路設計技術により最上級の音質を実現しました。左右のチャンネルそれぞれに個別動作するOPAMPは交換可能なソケット方式になっており、簡単に交換してチューニングが可能です。高精度な光デジタル出力を搭載し、DR.DAC2にデジタル接続したり、AVアンプにつないで5.1チャンネルデジタル出力も可能です。RCA出力の他にヘッドホン端子も装備し、150Ωを超えるようなインピーダンスの高い高級ヘッドホンを使う場合でもヘッドホンアンプの搭載により高音質再生が可能です。その他、音声再生を主眼に開発した製品ですが、アナログ入力端子の搭載によりTVチューナーカードとの接続が可能になりました。

● 高級オーディオコントローラーと高性能DAC搭載/安全性の高いボード設計/PNK回路採用

専門レコーディングカードに採用される高級オーディオコントローラー（ENVY24HTーS）と2チャンネル専用の高性能DAC（AK4396）を搭載して安全性と高音質を実現し,安定的なボード設計と共にマザーボード上で発生するノイズを根本的に遮断することができるフィルタリング技術PNK(PCI Noise Killer)回路を自主的な設計で適用してPC内部ノイズを遮断し,アンチ-ポップ回路装着でコンピューター起動の時、発生するノイズも最小化させました。

● FDO(Full Differential Output)のトリプルOPAMP回路(ソケット方式)

ハイエンドオーディオ製品にも採用されるFDO(Full Differential Output)のトリプルOPAMP回路の搭載で根本的な音質の向上と同時に、柔らかく澄んで伸びる高音、迫力のある中低音などプリアンプチップが持つ特有の優れた音色で、コンピューターを音楽鑑賞のためのオーディオ機器として使用させる事が可能になります。また、ソケット方式で交換可能になっている設計のOPAMPを交換することによって、簡単にお好みに合った音色に変えることが可能です。

● 強力なヘッドホンアンプ機能

ヘッドホンアンプを搭載しており、一般的なイヤホンやヘッドホンだけでなく、インピーダンスの高い（150～600Ω）ヘッドホンであっても高音質再生が可能です。DAC（AK4396）とトリプルOPAMPを経由してヘッドホン出力が生成されるので、PRODIGY HD2のHiFi音質がヘッドホンでもそのまま得られます。

● 最大 192kHzのアップサンプリング

MP3やオーディオCD、DVD、各種オーディオファイルは一般的に再生周波数は44.1kHzや48kHzになっています。これを96kHzや192kHzにアップサンプリングして出力することで、よりノイズ感の少ない高音質再生が可能となっています。

● 3Dサウンドアクセラレート機能

Windows 2000/XP環境ではQSound Effectをサポートし、EAX 1.0/2.0やDirect Sound 3D 対応ゲームを楽しめます。

製品紹介及び推奨環境

● LowProfile対応

付属のロープロファイル用ブラケットへ交換することで、キューブ型やスリム型のコンピュータなどでもProdigy HD2の高音質再生を楽しむことができます。

● 安定性の高いドライバー

Windows ME,2000,XP,2003,Windows XP 64bit Edition, Vista など、多くのOSに対応し、VIA社のデジタル署名された安全性と互換性が高いレファレンスドライバーを提供します。

製品仕様

アナログ出力	2チャンネル RCA(Left, Right)　ヘッドホン出力(3.5mm ステレオミニジャック)
アナログ入力	LINE IN(外部　3.5mm ステレオミニジャック)、AUX IN(内部　4ピン)
カードタイプ	標準 PCI, 付属の交換用ブラケットによりロープロファイル対応
ヘッドホンアンプ	基本0dB　ジャンパー 切替により150Ω以上のヘッドホンにも対応
デジタル出力	光出力端子（角型）
サポート周波数	44.1kHz, 48kHz, 96kHz, 192kHz
対応OS	Windows ME, 2000, XP, 2003 / Windows XP 64bit, WindowsVista32/64bit 互換

システム仕様

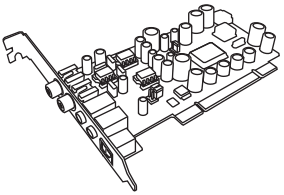
PRODIGY HD2が提供する機能を 100% 活用するにはコンピューターのスペックが重要となります。PRODIGY　HD2はできるだけコンピューターの性能を必要としないよう設計されておりますが、最大限の性能を発揮するためにはなるべく推奨環境以上のコンピューターをお使いいただくことで、優れた2チャンネルスピーカーを使って高音質オーディオ鑑賞をお楽しみいただけます。

必要環境	推奨環境
1. Intel Pentium III 1GHz 以上の CPU または同級の AMD CPU 2. Intel, VIA, NVIDIA, AMD チップのマザーボード 3. 256MBのメモリー 4. 1個の空の PCI スロット 5. Microsoft WindowsME/2000/XP/2003/Windows XP 64bit 6. UDMA 66以上を支援するハードディスク 7. CD-ROM 40X 以上 8. アンプ内蔵型 ステレオスピーカー	1. Intel Pentium4 2.0G 以上の CPU または 同級の AMD CPU 2. Intel, NVIDIA チップのマザーボード 3. 512MB 以上のメモリー 4. 1個の空の PCI スロット 5. Microsoft Windows XP 6. UDMA 100/133支援のハードディスクまたは S-ATA 方式のハードディスク 7. CD-ROM 40X 以上 8. 高性能アンプ & スピーカーまたは アンプ内蔵型 ステレオスピーカー

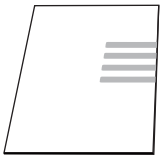
※ 最新3Dゲームや高画質映像の再生などには高いシステム性能やグラフィック性能が要求されます。

製品構成及び詳細名称

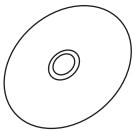
製品構成物



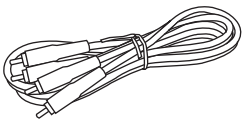
PRODIGY HD2 カード



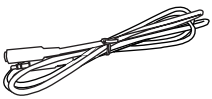
製品使用マニュアル



インストールCD



RCA アナログ出力ケーブル（1.5m）



ヘッドホン延長ケーブル（1.5m）

ロープロファイル交換用ブラケット

製品の詳細名称

■ 外部接続ジャック

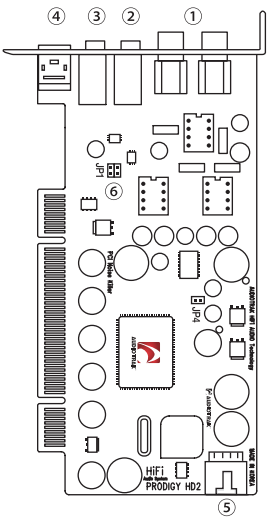
① RCA 出力端子 (白, 赤色) : アンプまたはスピーカーと接続する端子
② ヘッドホン出力端子 (白) : イヤホンやヘッドホンを接続する端子
③ ライン入力端子 (白) : TVチューナーカードなど外部ライン入力を受けるための端子
④ デジタル(光)出力端子 (角形, 黒色) : デジタル(オプティカル方式) 出力端子
※注意 ： 光出力端子に光ケーブルを接続した後、出ている明りを正面から見ると視力を損傷する可能性がりますので気を付けてください。

■ 内部接続端子

⑤ AUX-IN (白) : TVチューナーカードなどと接続する内部アナログ入力端子
※注意 : ライン入力端子と同時使用はできません。

■ その他の端子とジャンパー設定

⑥ JP1 : ヘッドホン増幅 ON/OFF ジャンパーで 150ohm以上のヘッドホン使用時、ジャンパーを ONにすれば約200%(RCA出力対比) の増幅となります。
一般的なイヤホンや150ohm以下のヘッドホン使用時には、デフォルト（出荷時設定）のOFFのままお使いください。
OFF設定時は約70%(RCA出力対比)の増幅となっています。

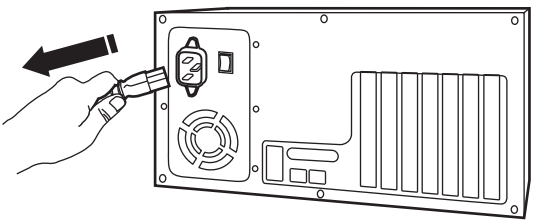


ハードウェアの取り付け

PCIスロット接続タイプのオーディオカードを導入する際には、パソコンのケースを開けて作業しなければなりません。手順に間違いがあると、大切なデータまたは、パソコン本体、周辺機器を破損する恐れもあります。下記の説明をよくお読みになってから設置作業を始めてください。

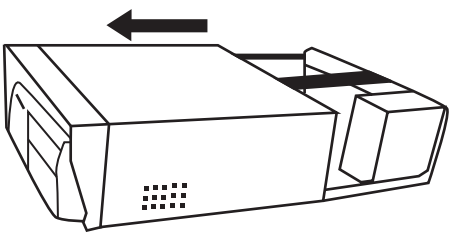
- PCIカードは、静電気防止ビニールに封入されています。取り付ける直前まで、開封しないでください。
- 取り付けるパソコンのマニュアルから「PCIスロットへの周辺機器接続」・「ケースの開閉」についての該当箇所の記述をご覧ください。自作パソコンをご使用の方は、マザーボード及びケース付属のマニュアルの上記該当箇所をご覧ください。

1. 作業効率・安全の為にパソコンの電源を切り、接続されているケーブル類（電源、マウス、キーボード、プリンタ、ディスプレーなど）を、全て外します。

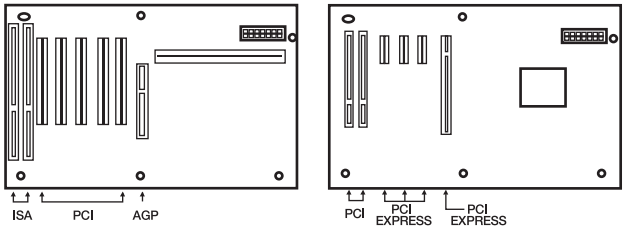


2. 人体に蓄積された静電気は、精密電子部品にダメージを与えることがあります。体の静電気を取り除いてください。水道の蛇口などアースされている金属部分に触れたり、静電気除去製品などをご使用ください。

3. パソコンのケースを開けます。取り外す際には、指先に怪我を負わないよう注意してください。

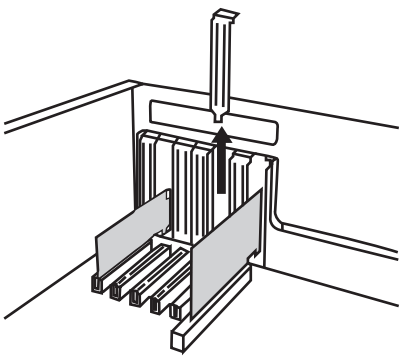


4. PCIスロットを確認してください。PCIスロットが分からない場合、パソコンのマニュアルを参照してください。
- AGPスロットはグラフィックカード専用のスロットです。
  このスロットには、PCIカードを取り付けることはできません。
- PCI ExpressスロットにもPCIカードを取り付けることはできません。



5. 静電気防止ビニールを開けます。PCIカードを扱う時には、十分に注意してください。精密電子部品には直接触れないでください。カードの非金属部分をつかんで作業を行います。

6. PCIカードを取り付けるためには、該当スロットに対応するガイドブロックをパソコンのケースから取り外さなければなりません。ネジで固定されている場合はネジを外してガイドブロックを取り外します。特殊な形状の場合は、ケースまたは、パソコンのマニュアルを参照してください。ガイドブロックが金属製の場合は、作業の際に手や指を怪我しないよう注意してください。



7. PCIオーディオカードを、PCIスロットに取り付けます。奥までしっかり差し込んでください。取り付けできない場合は、無理をせず別のPCIスロットでやりなおしてみてください。
正しく取り付けされていないと、認識できなかったり、正常動作しない場合があります。
奥まで差し込みましたら、ネジでPCIスロットの「耳」をしっかり固定します。取り付けが終了したら、他のPCIカードやAGPカードなどがずれていないか確認してください。

8. ケースのカバーを閉じ、ケーブル類を正しく繋ぎ直してください。

ドライバーのインストール前に

BIOSの設定

現在販売されているほとんどのマザーボードにはサウンド機能が搭載されており、サウンドカード増設時、オンボードのサウンド機能と競合してトラブルの原因になる場合があります。
この場合はBIOS設定でオンボードのサウンド機能を停止(Disable)させてください。
また、使用していない機能（パラレルポートやシリアルポートなど）がある場合は、それらの機能も停止(Disable)することにより、パソコンのパフォーマンスが向上する場合もあります。

※BIOSの設定を変更しなくても問題なく動作する場合もあります。

この項の説明は一例ですので、マザーボードの種類によりBIOS画面や設定方法が異なる場合がありますが、その場合はマザーボードのマニュアルやメーカー様へお問い合わせください。メーカー製パソコンの場合、設定ができない場合もあります。

1）パソコンの電源を入れ、キーボードのDELETE キーを押し、BIOS設定画面を表示してください。ほとんどのマザーボードがDELETE キーが設定キーになっておりますが、一部の機種ではF1 やF2、F10などの場合もあります。お手持ちのマニュアルでご確認ください。

2）多くの場合、BIOS 設定画面の Integrated Peripherals 項目にサウンドの設定があります。機種によっては Advanced Setting や Chipset Setting と表記されている場合もあり、さらに項目が細分化されているものもございます。その場合の多くは、I/O Device Configuration と表記されています。

3）Integrated Peripherals 項目内に Onboard Sound、AC97、Sound、Audio、MIDI、Gameport を **Disable** に変更してください。

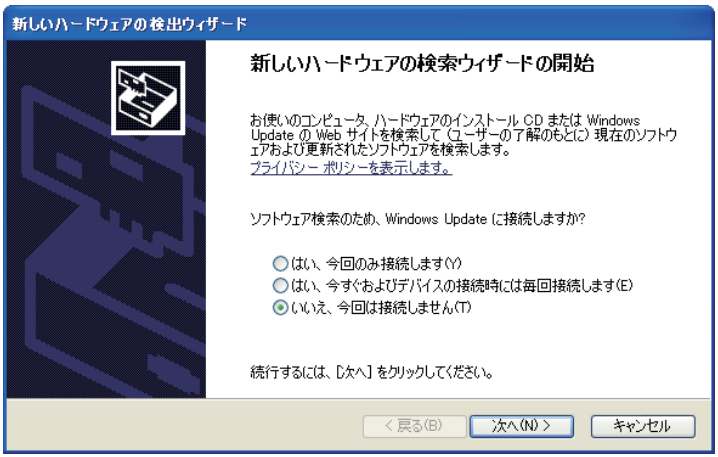
4）BIOS の設定を保存して下さい。

チップセットドライバー/Windows Update(サービスパック)

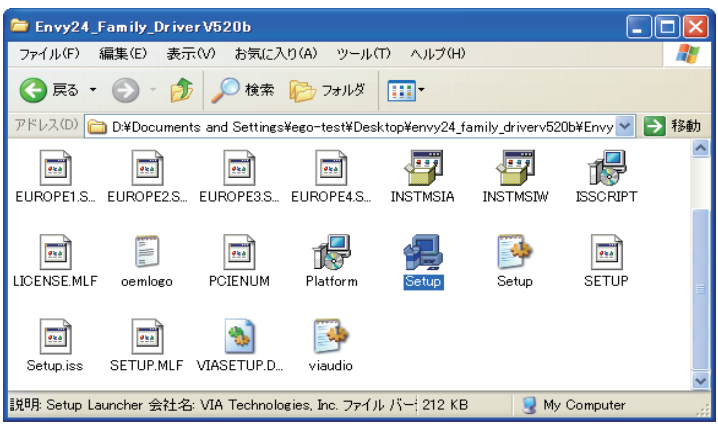
Prodigy HD2 のパフォーマンスを発揮するために、常に OS を最新の状態にしてください。
お使いになっているマザーボードの最新チップセットドライバーをインストールし、Windows Update（サービスパックのインストール）を行ってください。

Windows 2000/XP/2003/XP64/Vista ドライバーインストール

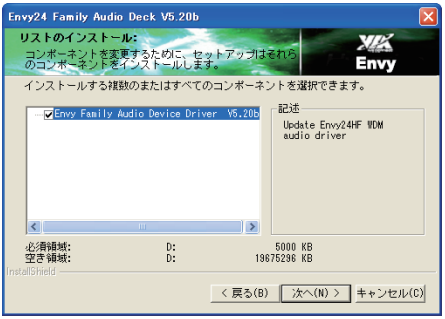
1 サウンドカードの取り付け後、パソコンを起動すると下記のように新しいハードウェアの検出ウィザードが表示されます。ここでは「**キャンセル**」をクリックして下さい。
※注意: Windowsの「新しいハードウェアの検出ウィザード」では完全にインストールできません。必ず以下の手順でSETUPプログラムにてインストールしてください。

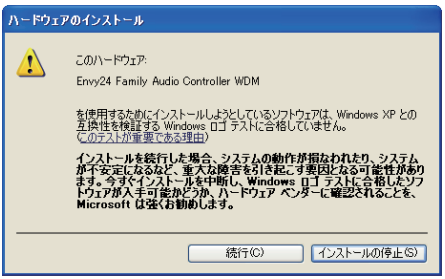


2 付属CD-ROM かホームページよりダウンロードしたファイルを解凍してできたDRIVERフォルダ → ProdigyHD 2フォルダから"Setup.exe"をダブルクリックし、インストーラーを起動して下さい。

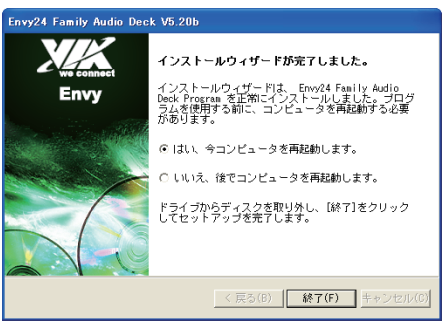


3 インストールが完了したらシステムを再起動してください。

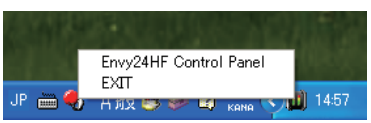




※ このような画面が表示されますが、問題はありませんので、「続行」をクリックしてください。

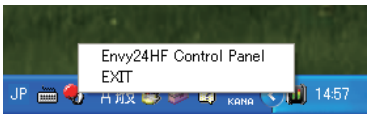


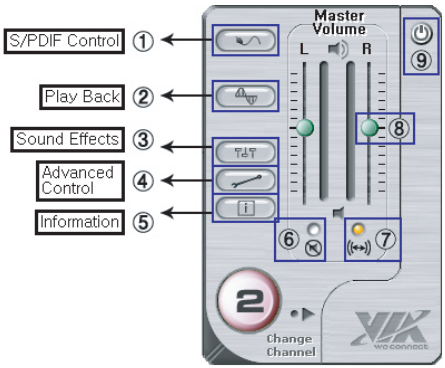
4 再起動すると、メイン画面のタスクバーにコントロールアイコンが表示されます。そしてスタートメニューにも "Audio Deck" コントロールパネルプログラムがインストールされます。



5 タスクバーのアイコンをクリックすると、画面にAudio Deckコントロールパネルが表示され、音量の調節やデジタル出力及びアナログ入力などの基本設定が行えます。

基本設定

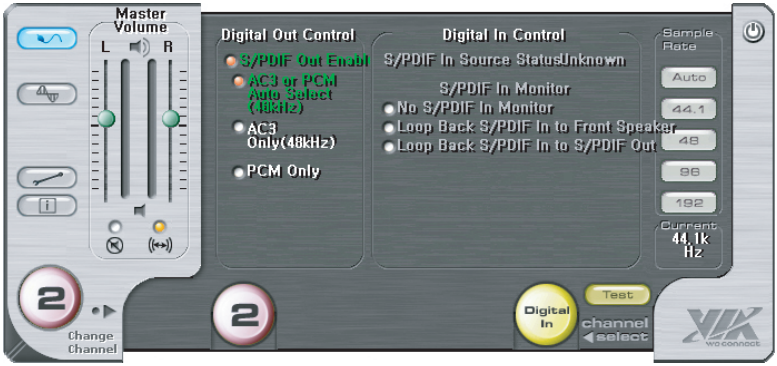




タスクバーのアイコン（上図）をクリックするとコントロールパネル（右上図）が表示されます。

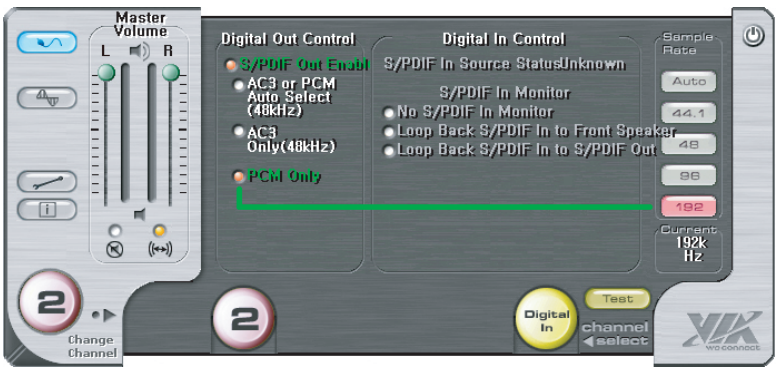
① S/PDIF Control : デジタル出力/アナログ入力設定
② Play Back : ウェーブ出力/ソフトシンセ/デジタル出力のボリュームコントロール
③ Sound Effects : Advanced Control 項目でQSound Effectをオンにさせた後、
再起動すると設定パネルが現れます。
※注意 : Windows XP 64Bit Edition/VistaではQSound Effectに対応しておりません。
④ Advanced Control : QSound Effectをオン(再起動が必要です)
⑤ Information : ドライバー、Windows、DirectX、コントロールパネルのバージョンなどを表示します。
⑥ Mute : チェックするとミュート（消音）状態になります。
⑦ Link : チェックすると左右チャンネルのボリュームが同時にコントロールできます。
⑧ Master Volume : PRODIGY HD2の全体の音量を調整します。
⑨ Exit : コントロールパネルを閉じます。

① S/PDIF Control



1 Digital Out Control ： デジタル出力モード設定

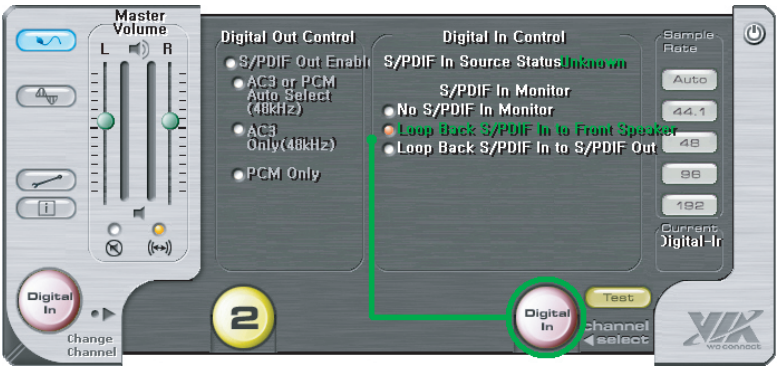
- S/PDIF Out Enable : デジタル出力を使用する時にチェックします。
光ケーブルを接続すると、ケーブルの反対側に赤い明りが出ていることが確認できます。チェックを解除するとデジタル出力が停止となり赤い明りも出なくなります。
- AC3 or PCM Auto Select (48kHz) : MP3やオーディオCD、DVDビデオなどを48kHz固定で出力します。
- AC3 Only(48kHz) : DVDビデオなどのAC3再生時に、パススルー出力します。
- PCM Only : 外部機器へデジタル出力して音楽再生する際にチェックします。



PRODIGY HD2のPCM Only モードではサンプリングレートを最大192kHzまでアップサンプリングして出力することが可能です。デフォルト（初期設定）である AUTOでは再生ソースのサンプルレート値のまま出力されます。接続する機器が対応する周波数で出力してください。

2 Digital In Control：表示された Digital In を押して選択すれば TV受信カードなど アナログ入力 (LINE IN 又は AUX IN)を使うことができます。

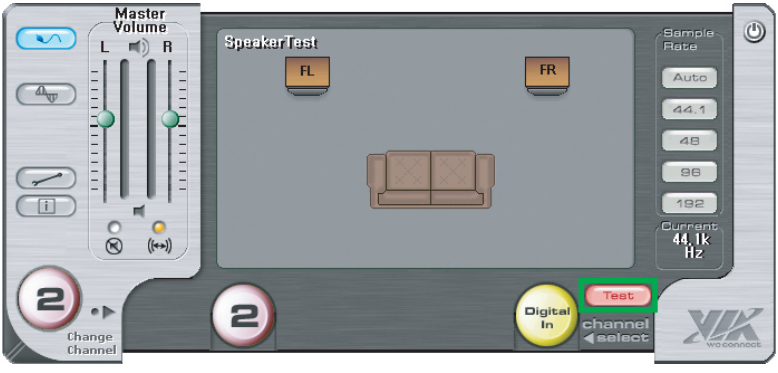
※注意 : PRODIGY HD2 ラインイン端子に入力されたアナログ信号は追加装着された ADチップを経ってデジタルに変換されてメインコントローラーでデジタル入力受ける構造に なってデジタル入力モードでのボリュームコントロール機能とデジタル入力とWindows内部再生をミキシング して出力する機能がなく、選択的に出力されるようになっています。



- No S/PDIF In Monitor : チェックするとアナログ入力で受けた信号を出力しません。
- Loop Back S/PDIF In to Front Speaker : アナログ入力信号を RCA 端子やヘッドホン端子で アナログ出力することができます。
- Loop Back S/PDIF In to S/PDIF Out : アナログ入力信号を光端子でデジタル出力します。

3 Test：スピーカーの左右出力のテストができます。

※注意 : Digital In 項目にチェックされている場合にはスピーカーテストはできません。



② Play Back

● WAVE : Windowsのシステム音やMP3ファイル、オーディオCDなどの再生はWAVE出力となります。
ボリュームフェーダーを動かして音量を調節できます。Master　Volume(基本設定ページ参照)と同じくMuteを押せば消音、Linkのチェックを解除すれば左／右のボリュームを個別に調節できます。

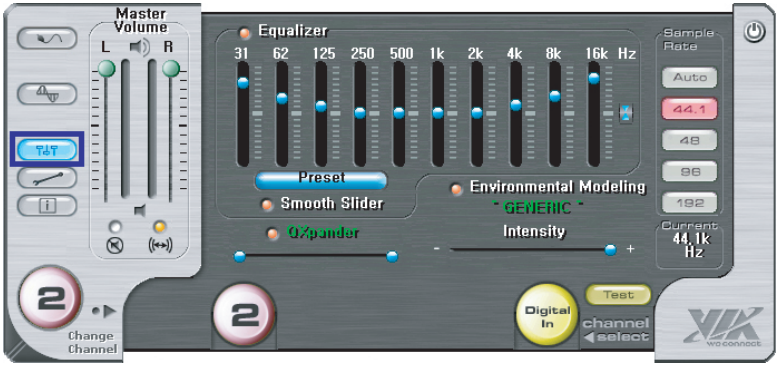
● SW 合成 : MIDIファイル再生時の音量を調節します。

● CDプレーヤー : PRODIGY HD2のオーディオCD再生はCD-DA方式のためWAVEボリュームで調節できます。
このボリュームコントロールは使用しません。

● PCM SPDIF : デジタル出力の音量コントロール
※注意 : AC3/DTS パススルーする場合と"Loop Back S/PDIF In to S/PDIF Out"項目にチェックしてアナログ入力をデジタル出力する場合の音量コントロールはできません。

③ Sound Effects

● Advanced Control 項目で Immezio 3D Effects Enable をオンにすると表示されます。



● Equalizer : チェックすると10バンド・グラフィックイコライザー機能が使用できます。
- Presetで設定されたイコライザー設定の呼び出しや現状態をの保存できます。
- Smooth Sliderにチェックすると隣接するバンドの設定値も連携して自動調整されます。

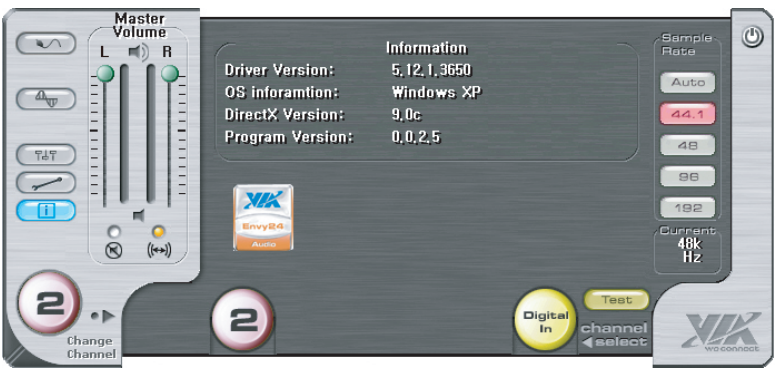
● QXpander : 2チャンネルのバーチャルサラウンド機能で、ステレオ出力音に広がりを加えます。
効果はスライダーでコントロールできます。

● Environmental Modeling　:　指定されたQSound環境設定のエフェクト量を調整します。

④ Advanced Control

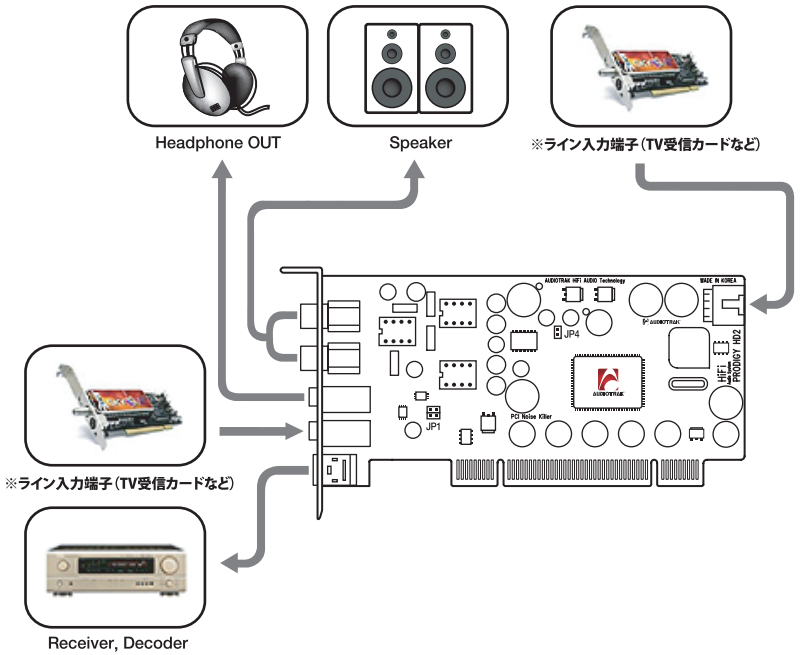
● Language : コントロールパネルの言語を設定します。Autoをクリックするとと Englishで選択されます。
● Show Microsoft Speaker Icon on Taskbar : タスクバーにボリュームアイコンを表示します。
● Smooth GUI Mode Enable : こちらのチェックを外すとWAVE出力の時にMaster VolumeとPlayBackのWAVE項目に出力レベルメーターが表示されます。
● Immezio 3D Effects Enable : Sound Effects 設定をオンにします。(再起動が必要です)
※ 注意 : こちらにチェックするとQsoundエミュレーションドライバーが適用されます。より高音質ステレオ再生を行うにはチェックせず、Qsoundをオフにされることをお奨めします。
ゲームを楽しまれる場合や、バーチャルサラウンドなどを使用する場合にオンにしてください。
※ 注意 : Windows XP 64Bit Edition / Vistaでは QSound Effect に対応しておりません。

⑤ Information



● Information 項目ではドライバー、Windows、DirectX、コントロールパネルのバージョンを確認できます。

PRODIGY HD2



※注意：入力端子の同時使用は出来ません。

スペック

ライン入出力	コネクタ	RCA
	出力レベル	10dBV(最大), 0.5dB step size
	インピーダンス	200Ω
ヘッドホン出力	コネクタ	3.5mm ステレオミニフォンジャック
	最大出力	120mW
	出力ゲイン	0～20dBV(最大)
	ゲイン設定ジャンパー(JP1)	ON(最大 20dBV)／OFF(最大 10dBV)
アナログ入力	コネクタ	ラインイン(3.5mm ステレオミニ)
		AUX-IN(4P、内部)
	入力レベル	0～6dBV Max
デジタル入力 (24Bit/192KHz)	コネクタ	光出力端子(角型)
	フォーマット	IEC-958Consumer(S/PDIF)
サンプリングレート	対応周波数	44.1, 48.0, 96.0, 192.0 kHz
D/A コンバータ	ダイナミックレンジ (S/N)	120dB A-Weighted (Typical)
	周波数特性	5Hz～40KHz
	サンプリングレート	30KHz～216KHz
	ビット数	24Bit
A/Dコンバータ	ダイナミックレンジ (S/N)	96 / 102 dB A-Weighted (Typical)
	周波数特性	20Hz～40KHz
	サンプリングレート	4KHz～96KHz
	ビット数	24Bit
コントローラーチップ	Envy24HT-S(VT1721)	
ドライバー	Vinyl Stylus	(VIAリファレンスドライバー,64bitサポート)

Q. ドライバーとコントロールパネルを削除する

ドライバーやコントロールパネルのアップデートやエラー発生時には、必ずドライバーとコントロールパネルを削除し、システムを再起動してから再インストールを行ってください。

1) ドライバーの削除方法はインストールCDの中の「PRODIGY HD2」
⇨「Setup」フォルダで「Setup.exe」ファイルをダブルクリックしてください。

【 Envy24 Family Audio Device Driverの削除 】を選択し、【 次へ 】をクリックして完了した後に 必ず再起動してください。

2) スタートメニュー ⇨ コントロールパネルの【 プログラムの追加と削除 】で
【 UnInstall Envy24 Family Audio Device Driver 】を削除する方法があります。

Q. パソコンがProdigy HD2を認識しない

PCIスロットの取り付けが不完全でエラーが発生する場合があります。カードを一度抜いてから再度しっかりと取り付けてください。またPCIスロットに不具合があることも考えられますので違うスロットに取り付けてみてください。PCIカードのスロットへ接続する金属部は大気による劣化が発生する場合もありますので、消しゴムや接点復活材などでスロット接続部分を洗浄してください。

Q. ドライバーインストールの途中にダウンする

他のハードウェアデバイスやドライバーとのトラブルが原因でドライバーのインストール中にシャットダウンする場合があります。その際にはまず、マザーボードに内蔵サウンドデバイスがあるか確認し、内蔵サウンドデバイスをBIOS設定上で使用停止にしてください。マザーボード内蔵サウンドデバイスを停止させても、改善しなければ、サウンドカードを他のPCIスロットに取り付けてください。また他のPCIデバイスを全て取り外し、サウンドカードだけで動作を確認してください。

Q. 音声チャットの対応

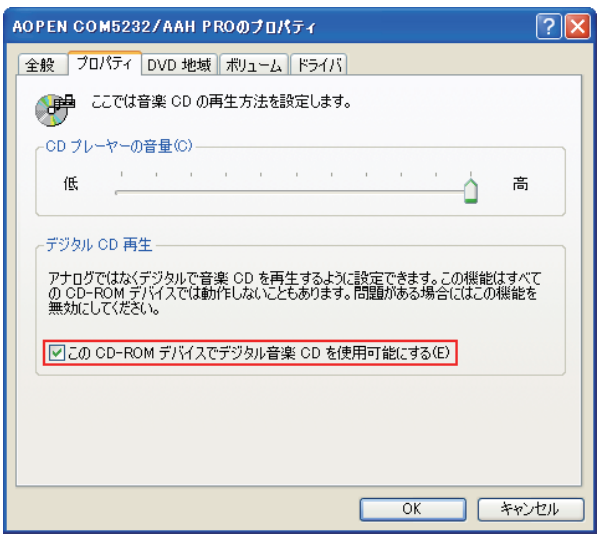
PRODIGY HD2 は 2チャンネル再生専用製品のため、マイク入力や録音などに対応した製品ではありませんので音声チャットなどはサポートしません。

Q. TVチューナーカード使用時のボリュームコントロール

PRODIGY HD2のアナログ入力(LINE IN、AUX IN)はWindows上でボリュームコントロールできません。TVチューナーカード使用時にはスピーカーなどの再生機器側でボリュームコントロールしてください。

Q. オーディオCDを再生する時、ケーブル接続の必要があるか

パソコンのCD-ROMドライブを使って音楽CDを再生するには、CD-ROMドライブのアナログ出力を利用する方法と、マザーボードに繋がれているデータケーブル (ATA、SATA) でデジタル転送する方法があります。それ以前にはCD-ROMドライブ裏にあるアナログ端子にオーディオケーブル(4ピン)を接続して使う方法がありましたが、CD-ROMでアナログ出力すると品質があまり良くないCD-ROMのDACが使われるのでCDの音質が落ちます。
一方、CDのデジタル出力方式であるCDDAモードでは、CD-ROMドライブとサウンドカードとをオーディオケーブルで接続する必要がありません。マザーボードと繋がれたケーブルでデータと共にデジタル転送され、サウンドカードのWAVE出力を利用して出力するので音質が一番良い方法です。

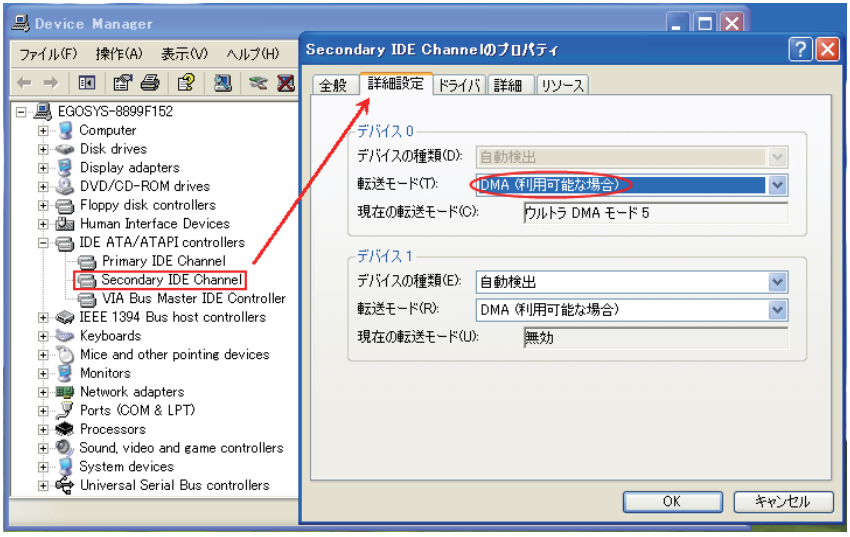


コントロールパネルのサウンドとオーディオデバイスで"ハードウェア"から、使用するCD-ROMドライブをダブルクリックして表示されるプロパティ画面にて"この CD-ROM デバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする"をチェックしてください。
もしそれでも音声が途切れる場合は、CD-ROMの転送モードが低く設定されていると考えられますので、転送モードを変えてください。転送モード変更は下記をご参考ください。

Q. オーディオCD再生の時やDVD再生の時、音が途切れたりノイズが発生する

CD-ROMデバイスのデータ転送モードが正常に設定されていない場合、ノイズや音が途切れるなどの症状が現われ、システムのパフォーマンスが落ちる場合がありますので、下記内容をご確認ください。
IDE コントローラーはPIO(Programmed Input/Output)モードとDMA(Direct MemoryAccess)という二つの転送方式があります。PIOモードではデータがメモリからCPUを経てドライブに転送されますが、DMAモードではデータがDMAチャンネルを通じてCPUを経ずにドライブに転送されるため転送速度が高く、入出力のインタラプトの回数が減りマルチタスクや高速処理に効果的なため、必ずDMAモードに設定をしてください。

WindowsXP/Vistaでは基本的にDMAモード設定されていますが、旧バージョンのOSの場合はコントロールパネル->システム->ハードウェア->デバイスマネージャでご確認ください。



インテルチップ使ったマザーボードの場合 "Intel Application Accelerator"パッチをした場合、自動でDMAモードに変更になりますが、その他のチップの場合は必ず確認してください。
マザーボードとCD-ROMを連結するケーブルは40ピン(DMA33モード以下)であり、80ピン(DMA66/100/133モード以上) ケーブルで連結しないでください。

Q. 正常にインストールしたが、スピーカーでノイズが発生する

スピーカーでノイズが発生した場合、スピーカーケーブルを外した状態でイヤホンやヘッドホンでもノイズが発生するか確認し、スピーカーの方の問題なのかサウンドカードの問題かをご確認ください。出力端子でノイズが発生しましたら下記の手順にお試しください。

1. WINDOWS及びスピーカーのボリュームを低めてしてください。
まずWINDOWS　基本ミキサーボリュームを低め調節し、使うサウンドデバイスのボリュームコントロールも調節して過度な出力にならないようにしてください。

2. グラフィックカードやLANカードとIRQの確認
多く現われる症状のひとつに、内蔵サウンドデバイスとトラブルが発生する場合や、その他AGPやLANカードとIRQ共有された場合が挙げられます。一部のグラフィックカードでは過度のアクセラレートによりPCIバス占有率が高くなりトラブルが発生する場合もあります。グラフィックカードドライバーは正式ドライバーをインストールし、オーバークロックなどをせずにご使用ください。 パソコンではサウンドデバイス以外のデバイスは全てノイズの原因になりうると考えられます。特にAGPカードやLANカードでノイズが発生する場合が多いので、スロットの入れ替えやデバイス点検を行ってください。

3.マザーボードチップセットパッチドライバーのインストールや、その他のデバイスドライバーを最新の状態にしてください(必須)
パソコンに接続されているデバイスは、それぞれの製品が組み合わさってひとつの製品として動作します。そのために各デバイスのドライバーがインストールされています。マザーボードのチップセットパッチなどが正常な状態でなかったり、各デバイスの最適化ドライバーやパッチが当てられていない場合、データ送信やデバイスのトラブルで異常が発生する場合があります。マザーボードチップセットを確認し、必ずチップセットパッチ、デバイスのドライバーも最新の状態にしてください。マザーボードのBIOSも最新バージョンへアップデートしてください。

4. IDEコントローラーの転送モードとハードディスクの確認(必須)
ハードディスクとCD-ROMドライブのデータ転送モードが正常に設定されていない場合や、ハードディスクデータケーブル接続が間違っている場合、ノイズや異常が現われてシステムのパフォーマンスが落ちる場合があります。PCに多くのハードを接続している場合や、転送速度がそれぞれ違うハード同士にデータ転送を行う場合、容量が大きいファイルを再生時に音が途切れたり、ノイズが発生する場合があります。この場合はOSがインストールされているハードディスクにファイルをコピーして再生してください。

5. パソコンの接地(アース)状況の確認
パソコンに触れると瞬間的に静電気の火花が飛んだり、電流が流れることを感じる場合があります。主な原因がマザーボードの組み立て時の問題で電流がケースに乗って流れる現象で、組み立て状態を再点検する必要があります。稀な例では電源不良や過度な電源で問題が発生することがあります。ノイズ予防のためにパソコンの鉄製ケース部分に電線を取り付けて水道管やスチール机または床に下ろすだけで静電気によるパソコンの部品破損や電流によるノイズ発生を防ぐ効果があります。

6. 電源を変えて見てください。
取り付けている電源コンセントが電熱器具と一緒の場合や、建物の電気工事が間違っている場合にも発生原因となります。この場合は電燈のちらつきもノイズ源となりますので、他のコンセントをお試しください。一例では、HIFI機器を使用する際は、電源問題や音への影響を防ぐため、遮蔽トランスなどの機器を使用して安定的な電源を得る場合もあります。

保守サービスのご案内

■ 保証（修理・サポート）サービス規定

ユーザー登録していただいたお客様のみ、修理・サポートサービスをお受けいたします。
ユーザー登録は、購入日を含む30日以内に完了してください。
30日を経過した場合には、修理サービスは有償とさせていただきます。

- 販売店発行のレシートのない製品は修理・サポートサービスを受けられません。
- シリアル番号の確認ができない製品は、修理・サポートを受けられません。
- 保証期間を経過した製品は、有償サポートとなります。
- 保証期間を経過した製品は、有償修理となります。
- お客様の過失により修理を依頼される時は、有償修理となります。
- 中古品、譲渡品の場合、有償サポートとなります。

■ 修理について

保証期間内に、正常な使用状態において、万一故障した場合には、無償で修理いたします。
次のような場合には、保証期間内でも有償修理とさせていただきます。

- 取り扱い上の誤り、不当な改造や修理による故障及び破損
- お買い上げ後の衝突、落下あるいは移送による故障及び破損
- 火災、異常電圧、天災などによる故障及び破損
- 保証書の提示のない場合
- 購入店レシートのない場合
- 保証書の未記入、または字句の訂正のある場合
- ユーザー登録の確認のとれない場合

■ 修理依頼方法

弊社修理サービスを受ける権利を有するお客様が、修理を希望される場合、下記の手順に従って、弊社修理サービスをお受けください。
インターネットで弊社サポート関連記事(http://www.audiotrak.jp)を参照してください。
Ｅメール(support@audiotrak.jp)にて、必要事項をご確認の上、問い合わせください。
サポート担当者が、お客様の製品に対し、要修理と判断させていただいた場合、担当者の指示に従って、修理サービスをお受けください。 お客様が故障と判断された場合でも、弊社サポートにご相談いただくことで、容易に解決されるケースも多々ございます。販売店に返品・修理のご依頼をされる前に弊社サポートまでご報告ください。

■ 修理・サポートをご依頼される場合の事前確認事項

修理・サポートのご相談をいただく場合、弊社サポート担当者が、お客様に尋ねさせていただく確認事項がございます。事前にご自分のデータを分かる範囲で、お手元に揃えておいてください。

- お客様のお名前・ご住所・電話番号・Eメールアドレス
- 製品名・シリアル番号・販売店・購入日

■ ユーザー登録のお願い

製品の保証はユーザー登録後、有効になります。ユーザー登録を行っていない場合、製品の保証・サポートを受けることが出来ませんのでご注意ください。製品の保証期間はご購入日より1年となります。

インターネットでの登録方法

http://www.audiotrak.jp/support/

上記URLにアクセスしていただき、ユーザー登録のページで必要事項を入力してください。
製品のシリアル番号（Serial.No）は製品パッケージに記載しております。

保　証　書

品番
PRODIGY HD2 ADVANCE

Serial.No

ご購入年月日　　年　　月　　日

保証期間　　1　年間

お　客　様

(フリガナ)

お名前

ご住所　〒　　ー

電話番号　　(　　)

ご注意：販売店印ならびに購入日の記入がない場合は、無効となります。

販売店印

株式会社 エゴシステムズ　AUDIOTRAK Japan 事業部

PRODIGY HD2 ADVANCE

4 560142 570992

AUDIOTRAK®

PureAudio PCI Card

PRODIGY HD2™

株式会社 エゴシステムズ

〒101-0043　東京都千代田区神田富山町26-6

ホームページ：http://www.audiotrak.jp/

Eメール：support@audiotrak.jp

© 2008 AUDIOTRAK Japan. All rights reserved.